

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第6回会議概要

- 1 会議名 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第6回会議
- 2 日時 平成29年11月30日(木) 午前9時30分から11時まで
- 3 会場 安曇野市役所 会議室301
- 4 出席者 宮下健司委員長、平田米子副委員長、小林栄子委員、安井邦夫委員、宮下克彦委員、百瀬佳子委員、幅修一委員、上兼裕委員、亀井智泉委員、平倉勝美委員、降旗幸子委員、古川節雄委員、三澤禮司委員、堀金隆雄委員
《事務局出席》 山田教育部長、生涯学習課蓮井課長、古畑、田原
株式会社KRC(計画策定支援業務委託業者) 小林
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴人 0人 記者 0人
- 7 会議概要作成年月日 平成29年12月6日

会議事項等

○会議の概要

- 1 開 会 蓮井生涯学習課長
- 2 あいさつ 宮下委員長、山田教育部長
- 3 協議事項
(1) 第2次計画案の決定について
(2) 公表までのスケジュールについて
(3) その他
- 4 閉 会 平田副委員長

○協議事項

- (1) 第2次計画案について(説明:株式会社KRC 小林)
- (2) 公表までのスケジュールについて(説明:生涯学習課 古畑)

【宮下委員長】 第5回会議でいただいた意見を踏まえて、推進計画の修正を行いました。まずは、その修正について、御意見を申し上げます。

【平倉委員】 目次のページと実際のページが合っていないので、修正をお願いします。少し質問も含むのですが、2ページの下段の図について、以前より見やすくなりましたが、方位と縮尺の表示は必要なのでしょうか。また、4ページのグラフに単位の表示がありませんが、なくてもよいのでしょうか。7ページの一覧表の中に「劇場」という表記があります。一方、33ページの表には「豊科公民館ホール」と表記されており、「劇場」が「豊科公民館ホール」と同じものなのでしょうか。また、どちらの表現が市民に馴染みのあるものなのでしょうか。13ページの「障がいのある人も外国人も」という表現について、入れていただき良かったのですが、外国人からは「日本人はいつも、私たち外国人を障がい者と同じにするよね。」とよく言われます。外国人の方からすると、このような表現は気になることなのかもしれません。それから、18ページ以降の個別施策の対象について、色付けがされていて非常に分かりやすいのですが、色付けの凡例があった方がどうして色付けされているのかが分かりやすいと思います。また、23ページの下段の施策内容の「近年多発し」という表現について、前回の会議で削除するかどうかという議論がありませんでしたでしょうか。次に、45ページの②「ホール発表の場としての活用」の対象について、65歳以上が対象から外れていますが、実際の65歳以上の利用はかなり多いと思いますので、対象から外さなくてもよいのではないのでしょうか。52ページからの第6章の文章中に「等」という表現が非常に多いように感じます。少しごまかしているようにも感じますが、いかがでしょうか。最後に、55ページの「学習機会の充実」の下にL字の表示がありますが、それは何を意味しているのでしょうか。

【宮下委員長】 しっかり読み込んで、大切な点について指摘いただきありがとうございます。事務

局より説明をお願いします。

【事務局（生涯学習課長 蓮井）】 豊科公民館ホールの劇場という表現について、平成 21 年度第 1 次生涯学習推進計画を作成する時点におきましては、条例上の劇場ホールと表記されていました。しかし、現在において分かりやすくするには、豊科公民館ホールに統一した方がよいと思います。

【事務局（KRC 小林）】 細かいところまで指摘いただきありがとうございます。目次の対応関係については、再度確認して正しい表記に改めます。2 ページ図中の方位と縮尺については、通常地図を表記する場合は、明記するルールがあります。しかし、ここでは地図自体に意味合いを持たせておらず、安曇野市の形をイメージ図として挿入しているので、方位等の表記はなくてもよいと思います。4 ページ棒グラフのラベル表示について、修正中に消えてしまいましたので、改めて表示します。

【平倉委員】 もう一つ加えたいのですが、4 ページのグラフの凡例について、「年少人口」「生産年齢人口」「老年人口」とあり、「生産年齢人口」はこれまでの表現にない言葉で、それぞれについて何歳から何歳までが該当する年齢なのか表記した方がよいと思います。

【事務局（KRC 小林）】 この年齢の 3 区分については、国勢調査等、国で統一されている表現になっています。「年少人口」は 15 歳未満、「生産年齢人口」は 15 歳以上 65 歳未満、「老年人口」は 65 歳以上と定められています。「生産年齢人口」15 歳以上は働くことが可能となり、「老年人口」65 歳以上の人口比率が、いわゆる高齢化率を示す人口比率となっています。この 3 区分について表現はそのままにして、それぞれの具体的な年齢についての表記を追加します。障がいのある方と外国人の方の表記については、配慮していることを伝える意味で明記しましたが、一方で指摘のとおり強調することで差別的意味合いに受け取られる場合もあるので、他の計画との整合性も踏まえて、配慮できるような表現を検討していきたいと思います。次に、個別施策の対象の色付けについて、凡例を付け加えたいと思います。表示の仕方では、どの対象年代も表示し、すべての年代を対象としていることを前提として、色の濃さを 3 段階に分け、特に重視する年代を濃い色で示しています。続きまして、23 ページの「近年多発し」の「近年」という表現が具体的な年代を表すものではなく、この 10 年第 1 次推進計画策定以降、県内においても地震や火山噴火などが発生しており、災害の激甚化および多発化が各方面で発せられている共通認識として表現しました。45 ページ②対象の 65 歳以上を薄紫色に変更したいと思います。また、劇場という表現についてもホールに統一したいと思います。52 ページの文章中の「等」の多用について、断定できる箇所については、言い切る表現に変更したいと思います。55、56 ページの L 字の表現については、各項目の繋がりを線で繋いで表現したのですが、分かりづらいので表示方法について再考します。

【宮下委員長】 いくつか大切な点が指摘されました。地図の方位等について、表示するのが基本ルールとしてあり、それを配慮したと思われるのですが、ここでは必要ないのではないか、表示するにしても少し大きすぎるのではないかという気がします。それから、「年少人口」や外国人と障がい者を並列に表記することについて、外国人からすると違和感があるかもしれません。言葉の表現で修正できればと思います。凡例や等の表現についても、改善する必要があるかと思います。

【平田副委員長】 37 ページの⑥「音響照明スタッフ・レセプションの活用」について、人を活用するという表現に少し違和感があります。スタッフの協力など、もう少しいい表現があればと思いました。

【宮下委員長】 表現について、検討していきたいと思います。

【古川委員】 66 ページの用語解説について、「PDCA サイクル」の説明文で Act とあるが、どうして Action ではないのでしょうか。

【事務局（KRC 小林）】 確認したいとは思いますが、おそらくすべて英語の動詞で表記しておりますので、名詞である Action ではなく、動詞である Act を用いていると思います。

【宮下（克）委員】 7 ページの表について、実績値と当初の目標値、見直し後の目標値の縦列の境界線が見づらいので、区別しやすいような線を入れた方がよいと思います。32 ページのグラフについて、中心部分の線が、破線や点線を用いており、見づらいです。色分けしているので、実線でもよいのではないのでしょうか。それから、8、9 ページのアンケート結果について、⑪「いま取り組んでいる生涯学習の内容」においてはスポーツが 37%と最も多く、次いで健康づくりが 32.7%。それに呼応

して、⑭「生涯学習の学びから役立てたいこと」については、「健康維持、老化防止」が最も多く55.8%で、次いで「自らの生きがいがづくり」が52.8%と、その差はわずか3%しかありません。また、⑬「生涯学習で新たに学びたい・関心のある内容」の2位がスポーツ、3位が芸術となっています。そして、スポーツと芸術を合わせれば生きがいになると思います。この2つを合わせれば約42%となります。このような結果を次の生涯学習推進計画に繋げていきたいという思いもあります。

【事務局（KRC 小林）】 7ページ表の実績値と目標値を分かりやすく色分け等していきたいと思います。また、32ページのグラフについては、線の種類を改めたいと思います。8ページのグラフについては、特徴のある項目を捉えているので、細かいところまでは言えませんが、⑭の項目については、1位「健康維持、老化防止」と2位「自らの生きがいがづくり」がほとんど同じくらいの数値なので、「自らの生きがいがづくり」も特徴のある項目として捉え、本文にも挿入できればと考えています。

【三澤委員】 55ページで、文字が斜体になっている表記があり、浮いたように見えて非常に見づらいです。

【事務局（KRC 小林）】 こちらも先ほどのL字表記とともに、見やすいように再考します。

【堀金委員】 29ページ②の文中に「歴史資料」について、史が2つありますが、この言葉は正しいでしょうか。

【宮下委員長】 歴史資料とは、文字に書かれたものと、物質的なものを分けるためにある言葉です。ここでは、区別するために歴史資料と表記しています。

【堀金委員】 また、同じ②文中に「美術品に触れる機会」とありますが、私は「触れる」より、「触れられる」の方が、能動的でいいように思います。37ページの④文中には、「触れられる」とありますので、29ページも同様に「触れられる」にした方がいいと思います。66ページ用語解説について、各用語に番号がありますが、逆追いをする場合、各用語が掲載されているページを表示した方が、活用しやすいと思います。

【上兼委員】 7ページ表①「生涯各段階に応じた学習機会の充実」の児童館利用者数の項目には青少年期のみとなっており、実際には乳幼児期の利用も多くあり、この表の数値は実際と異なっているように思います。この(1)～(2)の段階分けは当初からされていたものでしょうか。12ページの文字が他はゴシック体なのに対し、ここだけが明朝体となっていますが、これは意図的に明朝体になっているのでしょうか。

【事務局（生涯学習課長 蓮井）】 7ページについて、第1次安曇野市生涯学習推進計画の施策体系図であり、平成21年に作成したときの区分となっています。参考資料として、見てもらえればと思います。

【事務局（KRC 小林）】 12ページの明朝体については、意図的に表示しています。今回新たに策定する計画についてはゴシック体で、それ以外の計画等については明朝体で統一しています。ゴシック体で揃えた方がいいのか、意見があればいただきたいです。

【安井委員】 33ページのグラフが平成27年度で止まっていて、55ページの表は平成28年度となっています。この計画は平成30年度からになるので、28年度まで入れた方がいいと思います。21ページ③「公民館講座の開催」の担当部署は、地域課ではなく生涯学習課に訂正した方がいいと思います。

【事務局（生涯学習課長 蓮井）】 平成28年度のデータについては事務局で検討します。

【事務局（古畑）】 21ページの担当部署については、生涯学習課に訂正します。

【幅委員】 3ページ1.4の文中の「かかる」を「かかわる」に修正した方がいいと思います。4ページ(3)文中の「それらの」を示すものが近いので、「これらの」の方がいいと思います。8ページ文中の「最多でやや突出して多く」という表現は、重複語などがあるのでもう少し簡単な表現にした

方がよいと感じました。11 ページ表の「25～44 歳の世代の特徴」の行に健康と健康づくりがあり重複しています。13 ページ 4.2 の文中「それぞれの人生を」は「それぞれの人生の」が正しいと思います。また、25～44 歳の世代に向けてのスローガンの文中「学びあう」を「学び合う」に統一した方がよいと思います。21 ページ②の文の表現に、ねじれや重複があるので工夫した方がよいと思います。37 ページ④ 2 行目、「生涯学習意欲の啓発」ではなく、「意欲の向上」または「意欲の喚起」の方がよいと思います。49 ページ⑦の「市民からのニーズ」は「市民のニーズ」でよいと思います。

【平田副委員長】 13 ページの下の文中、「定年を迎えるなどして」は「定年を迎えるなど」でよいと思います。

【古川委員】 29 ページ②の文中のように、美術品には触れたりすることができるものはあるのでしょうか。

【宮下委員長】 立体物などに関しては、特に視覚障がい者に配慮があります。

【宮下（克）委員】 15 ページ表中にある、「市内の公共施設等へのアウトリーチを行う」とありますが、美術品は美術館の中で鑑賞すべきものだという、アウトリーチに対して反対の意見もあります。

【事務局（生涯学習課長 蓮井）】 美術館等については文化振興計画等の中では、出前展示などを行い鑑賞できる人を確保するという方向性が示されているので、生涯学習推進計画においてもその方向性を踏襲したいと考えています。

【宮下委員長】 博物館や美術館に訪れる人口が減少し、高齢化が進んでいます。そんな中で博物館や美術館が、積極的に外に出て利用者の幅を広げていくことが生涯学習におけるアウトリーチの位置づけだと思います。

【上兼委員】 66 ページの用語解説に、5 ページの「プラットフォーム」と 32 ページの「公衆無線 LAN」を加えた方がよいと思います。

【古川委員】 26 ページ⑨文中の「美術諸分野」と目標の「美術等諸分野」の違いは何か意図があるのででしょうか。

【事務局（古畑）】 確認して統一します。

【三澤委員】 11 ページの表が、文の末尾が揃っておらず見づらいので工夫してほしいです。

【小林委員】 12 ページに「安曇野市教育大綱」が入ったことが素敵だと思いました。

【降旗委員】 37 ページ⑥の人に対して活用という言葉を使うのはどうかという意見がありましたが、生涯学習においては人材活用も重要なので、人に対して活用という言葉を使ってもよいと思います。

【亀井委員】 26 ページ⑫の「課題～重点課題」というのは、何を示しているのでしょうか。

【事務局（KRC 小林）】 括弧書きについては、外したいと思います。課題～重点課題というものは、アンケート調査の結果ついて、質問項目の満足度と重要度を相対的に評価する過程で設定した言葉です。

【亀井委員】 5 ページの図や 10 ページの表グラフは、数値が可視化して見やすくする工夫がとてまなされていて、行政が市民に分かりやすく説明をする能力はよいと思います。

【百瀬委員】 計画を推進していく立場の図書館としては、挙げられた課題を重く受け止めています。

【平倉委員】 5 ページ図中の「CSR」という言葉も、用語解説に載せた方がよいと思います。

【安井委員】 66 ページの用語解説 2 番に「facebook」とありますが、f の表記は大文字の F が正しい表記だと思いますので、確認をお願いします。

【宮下（克）委員】 7 ページの表について、平成 28 年度データを入れるのでしょうか。また、表の行すべてに斜線が入っており、数値がまったくない項目については、削除した方が見やすいのではないのでしょうか。同じ表中②の（2）は平成 25～27 年度まで実績値があるので、平成 29 年度の目標値には数値があるはずだと思います。統一した方がいいと思います。

【降旗委員】 8 ページの「生きがい」について、やはり「生きがい」がなければ生涯学習の一番の目的が消えてしまうと思います。年をとると、健康や老化防止は大切なことですが、それに心が伴わなければ生涯学習の目標から外れてしまうと思います。計画の中には、ぜひ「生きがい」を考え方の中に入れていただきたいと思います。

【宮下（克）委員】 13 ページ文中の「活かしほしい」は「活かしてほしい」だと思います。

【安井委員】 13 ページの Facebook の F は大文字になっているので、全体として統一をした方がいいと思います。

【百瀬委員】 33 ページにある「市内の図書館の利用者数の推移」グラフ中の堀金公民館は平成 27 年度に改修工事を行っていると思いますので、備考欄に付け加えていただければと思います。